

平成24年度 第4回CCCコミュニケーション関係学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年9月14日(金)13:30～

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：北根委員（ネット）鈴木委員

（事務局）井端事務局長 森下主幹 松本職員

IV. 議事概要

学士力実現に求められる教育改善モデルの検討

学士力の解説

1. 学士力の背景について

学士力を設定した背景について、委員より作成された案をもとに授業の内容や方法、各到達目標については言及せず、背景認識を整理考慮して検討し、文章を作成した。

以下に主な意見を列挙する。

- ・コミュニケーション関係学は、コミュニケーションの役割や仕組み、メディアコミュニケーションの特性と限界を探究しようとする使命を帯びている。
- ・グローバルな場面でコミュニケーションの機会が増えているので、嫌でも色々な価値観に触れなくてはならない。
- ・相手の立ち位置、国のプライド、歴史的、文化的、客観的、国民性などを理解しながら相手との関係を築くためにもコミュニケーションは重要な役割をもっている。
- ・グローバルなコミュニケーション環境の中で人間社会を維持し、発展させるためにもコミュニケーションは全ての根幹である。日常生活から外交に至るまで、様々な場面でコミュニケーションの重要性が増してきている。
- ・コミュニケーションとは意志の疎通を図るための基本となるシステムである。
- ・モノの見方を教育の中で気づかせ、配慮しながら対話できる訓練が生涯に亘って必要ではないか。
- ・コミュニケーションは全ての活動をより良くしていくための基本的な素養である。どのようなことをわきまえていなければならないのかを教育で気づかせる。気づかせた上で体験させていく。
- ・言語、宗教など、固有の属性をある程度把握した上で関係性をつくっていくことを教育の中で理解させなければならない。
- ・外国人とのコミュニケーションは、政治、宗教などの話はタブーとされてきたが、避けられない問題もある。例えば歴史問題などで日本人が攻撃されることがあるため、コミュニケーションスキル、ストラテジーを身につけていないと大きなトラブルに巻き込まれることがある。相手、相手の社会を含めて文脈を読む力が重要で、そこに気づき、知識を得るためにコミュニケーション関係学が必要である。
- ・コミュニケーションの様式や方策が多様化・高度化し、コミュニケーションに関連する修得しなければならない知識が増えている。利便性や脅威など。例えば、フェイスブッ

クを使うことで企業などとコミュニケーションの機会が増えるが、自分のプライバシーの問題、完全に自分の思考すらコントロールされてしまう恐れもある。社会の仕組みまでしっかり把握していないとコミュニケーションを豊かにする道具が、知らぬ間に人を傷つけてしまったりすることもある。便利だけど今まで経験したことがない様々な問題も起きている。それは自分たちのために本当に役立つものか、現実を客観的に観察し、気づかせることが大事である。

- ・新しい形態のコミュニケーションが人間社会の発展にどのような影響をもたらすのか、どう取り入れていくか、推測することが必要ではないか。
- ・時代に合うコミュニケーションを常に考えながら選択し、課題、目的に即していなければならない。
- ・新しいメディアだけでなく、人の移動、グローバルな移動など、自分から積極的に近づかなくとも相手から来る。今以上にコミュニケーションということの意味を問われるようになってくる。
- ・コミュニケーションという行為自体が変化してきている。余暇活動、娯楽などのカテゴリーに入ってきている。
- ・今まで使っていたコミュニケーションのやり方がうまく機能しなくなってきているので、ベースとしてのコミュニケーション論を今、この時代に学ぶ必要がある。基本に返りコミュニケーションを捉え直して学修し直さなければならない。
- ・体験活動を通じて人間社会の営みを充実させるコミュニケーションの在りかたを意識できるようにすることが必要である。
- ・新時代のコミュニケーションを客観的に捉え、それに即して人間社会の営みの充実に寄与することを目的とする。

2. 到達目標の解説について

3つの到達目標（1. コミュニケーションの役割・仕組み、2. コミュニケーションのスキル、3. コミュニケーションの諸事情・諸問題を分析・考察・応用）の解説について、委員より作成された案をもとに、どのような知識を身につける必要があるのか、どのような教育が必要かを検討し、文章を作成した。その際、到達目標のコア・カリキュラムのイメージ、到達度、測定方法についても再検討し、まとめた。

V. 今後について

24年度の委員会は本日で終了とし、コミュニケーション関係学教育における教育改善モデル（その1）、（その2）に追加する図表、全体の確認は、メールで行うことになった。

以上